

## 「新しい生き方」

2019年02月18日

エフェソの信徒への手紙4章25節～32節 だから、偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。わたしたちは、互いに体の一部なのです。怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。悪魔にすきを与えてはなりません。盗みを働いていた者は、今からは盗んではいけません。むしろ、労苦して自分の手で正当な収入を得、困っている人々に分け与えるようにしなさい。悪い言葉を一切口にしてはなりません。ただ、聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい。神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです。無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりなどすべてを、一切の悪意と一緒に捨てなさい。互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。

「著者」は、キリストを知らなかった時、心は暗く、放縦な生活をし、あらゆるふしだらな行いにふけていたが、キリストから愛されて、福音の真理を知った者となった今は、古い人を脱ぎ捨て、キリストを身に着けて生きる者となったと、生まれ代わりの恵みについて語ってきた。これらを踏まえ、新しい生き方について、筆を進めている。

まず、「だから、偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。わたしたちは、互いに体の一部なのです」と諭している。互いに愛し、信頼関係を築く教会の中で、偽りがあれば、交わりの真実は崩れ去る。あなたがたは、教会の一部を担っている者であることを心に留めよと言っている。「怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。悪魔にすきを与えてはなりません。」人は誰でも怒ることがある。しかし、その怒りを、翌日に持ち越してはならない。その日の内に抑えよ。悪魔は、人とキリストの間を裂こうと、虎視眈々と狙っている。悪魔の策略に陥るな。「盗みを働いていた者は、今からは盗んではいけません。むしろ、労苦して自分の手で正当な収入を得、困っている人々に分け与えるようにしなさい。」極めて具体的である。盗みをして、命をつないでいる人々がいた。彼らに対し、自ら働き、さらに困窮している人々にも分け与えなさいと諭している。「悪い言葉を一切口にしてはなりません。ただ、聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい。」言葉は生きている。相手に立ち上がれないほどの打撃を与えることもできれば、立ち上がらせることもできる。人を造り上げる、愛の言葉を、必要に応じて語りなさい。

「神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです。」聖霊は、キリストと私たちを結びつける神の力である。私たちは、終末の裁きの日、全き贖いをいただくための保証として、聖霊が与えられていることを、決して忘れてはならない。「無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりなどすべてを、一切の悪意と一緒に捨てなさい。」自分と隣人を否定するような悪意を捨て去りなさい。「互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。」キリストの十字架の死によって、赦されたのだから、この途方のない赦しを覚えて、互いに赦し合いなさい。この言葉が、キリスト教倫理の根本理念である。